令和５年度　　情報Ⅰ　　１１　新潟翠江高等学校（通信制）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
必履修	2	6	6	2

教　科　書	学習書・副教材等
新編　情報Ⅰ（東京書籍）	副教材：新編　情報Ⅰ資料ノート（東京書籍）

学　習　目　標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

学　習　内　容

1. 情報とメディアの特性　～　7. 著作権　（第１回レポート） 8. 情報技術の発展　～　13. デジタルの世界へ　（第２回レポート） 14. 数値と文字のデジタル表現　～　20. 情報デザインの流れ　（第３回レポート）	前期試験範囲
21. コンピュータとは何か　～　26. プログラムの基本構造2　（第４回レポート） 27. 発展的なプログラム１　～　33. サーバとクライアント　（第５回レポート） 34. インターネット上のサービス　～　40. 目的に合わせたデータの利用　（第６回レポート）	後期試験範囲

学　習　方　法

＜レポート＞

教科書の基本的な事項を確認する問題です。ほとんど教科書の中から出題されます。教科書をよく読んで解答しましょう。また，漢字もきちんと書くようにしましょう。乱暴に書いて読めない場合は，採点できません。また，毎回,実習課題があります。実習課題を行わないとレポートは不合格になります。自分の意見や考えをまとめる課題ですのでしっかりと取り組みましょう。

＜授　業＞

授業では，レポートの内容だけではなく，教科書を利用して，情報社会を生き抜くための大切なことがらを解説します。また，実習課題の取り組み方について，丁寧に解説します。

＜放送視聴＞

指定された番組を視聴して，放送内容をレポート冊子の巻末にある放送視聴報告書にまとめます。レポートに添付して提出，合格すれば義務時数の代替になります。

＜試　験＞

試験問題の大半はレポート課題から出題します。漢字の間違いに気をつけましょう。返送されてきたレポートをしっかりと復習し，問題を繰り返し解いておきましょう。

評　価　規　準　と　評　価　方　法

レポートの評価，スクーリングの出席状況，定期考査の成績を総合して評価をします。

レポート・定期考査の評価は次の観点から行います

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。

担　当　者　よ　り　一　言

「情報Ⅰ」は，コンピュータなど，情報機器の操作を学ぶ科目ではありません。情報モラルや法律，プログラミングの基本など情報社会で必要な知識を学ぶことを第一としています。小中学校でも情報機器の操作を学ぶ今，それ以上に大切なことは何なのかということを考えられるようになって欲しいと思います。